

要援護者支援計画書に基づく手順
安否確認の手順

特記：別冊「要援護者支援計画書」と合わせて作業する事

注意：当手順は環境等の変化に合わせて臨機応変に改正する

(案)

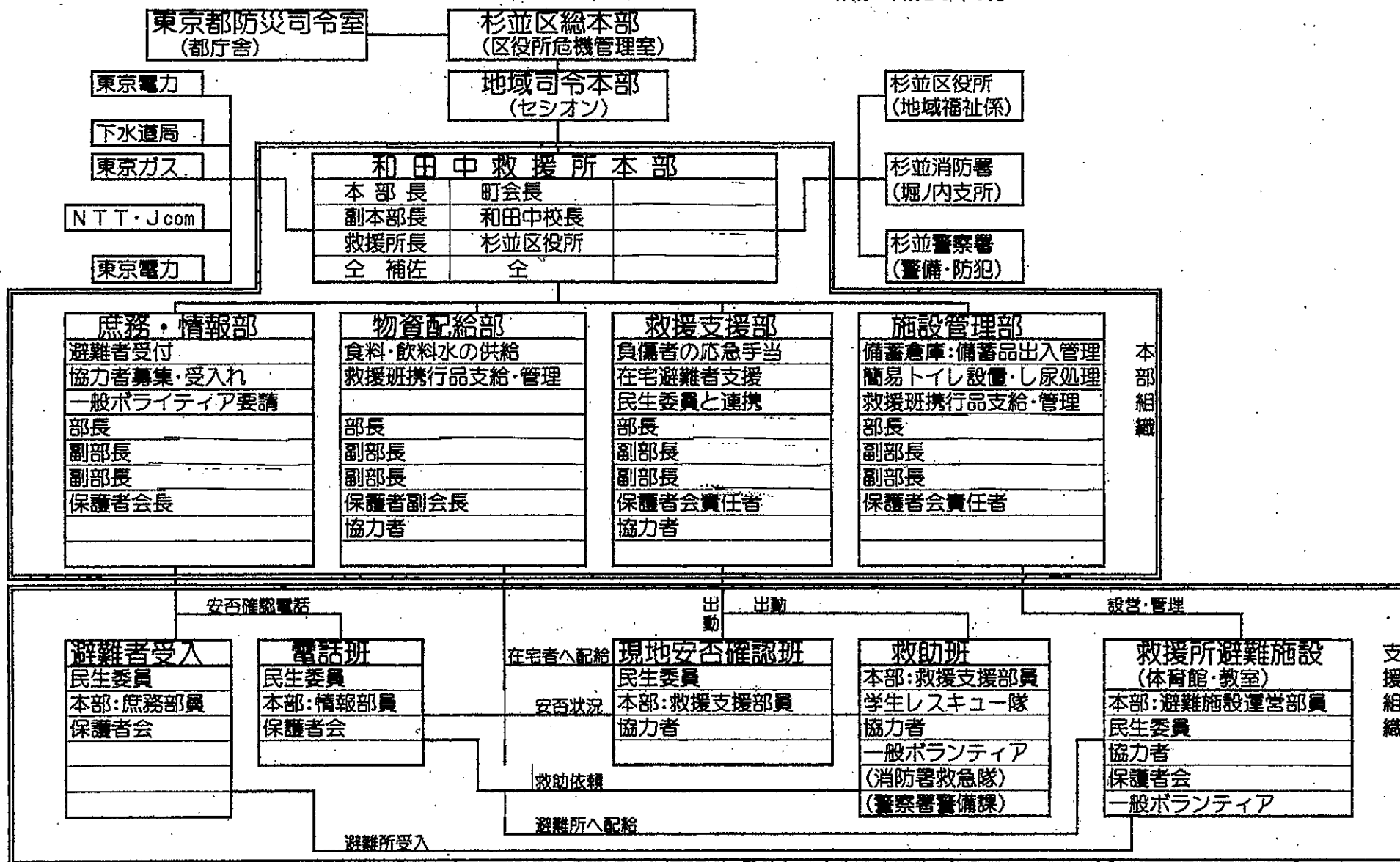
設置：平成22年 月
第1回改正：平成26年3月

和田中学校震災救援所運営連絡会
救援支援部・安否確認作業部会

和田一丁目町会 和田中学校震災救援所運営協議会 要援護者支援組織図 (案)

個人名：平成25年月訓練時による

作成：平成26年3月



基本要件-1・ハード面

- ◇ 区 域 和田中学校震災救援所区域
及び 当救援所に避難希望者の区域
※ 和田一丁目住民に限定せず、和田中学校に避難して
来た全員を対等に対応する事
- ◇ 開始時間 発災後、24時間以内に開始を目標とする
- ◇ 支援活動 ◎ 現地安否確認、避難・救援等要請連絡
◎ 救援隊出動＝搬送、救助
◎ 避難行動支援
◎ 避難生活支援-1＝自宅避難生活
◎ 避難生活支援-2＝救援所避難生活

現地安否確認活動の手順

手順-1 [要援護者リストファイルの受渡し]

※ キャビネットからファイルを取り出し、現地安否確認班へ必要資料を渡す。

⇒ 注意：キャビネットの暗証番号とリストファイルを扱える人

(但し、緊急時には下記の人に限定せず、協力者にも臨機応変に対処する事)

民生委員(H25年12月～H 年12月＝

個人情報閲覧研修修了者

＝

予定：_____

メモ

手順-2 [現地安否確認作業 (電話班・安否確認班)]

● 必須用品＝登録者台帳・避難者名簿・チェックシート・支援順位シール・虫ピン・区域地図

※ 最優先作業＝既に震災救援所に避難している人も居ると考えられるので、登録者台帳と避難者名簿を照合する。

※ 要援護者登録者台帳・避難者名簿から「安否確認カード(チェックシート)」を作成する。

※ 地図に支援順位の色シールを貼る(トリアーシタグではない)。

◇ 電話班 : 救援所にて、電話による安否確認作業(登録者台帳・チェックシートに記入)

◇ 現地確認班 : 確認に行く(カード・地図・支援順位色テープを持参)

⇒ 詳細は「要援護者支援計画書」を参照

メモ

手順-3 [救助・避難支援に救助連絡]

- 連絡内容は、全て記録に残す（登録者台帳・チェックシートなどに記入）
 - ※ 本部に戻って、救助班に救助要請。
 - ※ 緊急を要する場合は、現地から本部へ電話にて救助要請する。
- ⇒ 詳細は「要援護者支援計画書」を参照

メモ

手順-4 [救助隊出動]・・・和田中レスキュー隊

- ※ 電話班&現地確認班の要請を受けたら、直ちに救助隊出動
- ⇒ 登録者地図・万能タンカ・その他、現地確認班の要請物品を持って出動

メモ

手順-5 [確認結果の集計・報告]

- ※ 現地確認班・救助班は、救援本部に戻ったら直ちに状況を集計し、救援本部の担当者へ報告する。同時に避難生活支援を依頼する。
- ⇒ 口頭だけではなく、避難者台帳・チェックシート・区域地図を提示して報告する。

メモ

◀手順次頁へ続く

基本要件-2・ソフト面

◇確認順位

より弱い状況下の災害弱者から支援活動を開始する。

メモ

◇支援依頼

自宅避難者の状況から緊急と判断した時は、救援所本部へ支援を依頼する。

この場合、避難者の状況を詳しく連絡する事。

メモ

◇支援役割分担

救援所本部の各部と町会・和田中保護者会、及び協力者・一般ボランティアで、
避難支援・避難生活支援の作業分担を臨機応変に行う。

メモ

支援優先順位 (注：救急救命のトリアージではない)

参考：トリアージタグ(原則、右手首に付ける)・・・4色で分類

黒＝死亡か救命の見込みの無い状態、

赤＝最優先で治療が必要な重症、

黄＝すぐに治療しなくても生命に影響は無いが処置が必要、

緑＝軽傷

※現況トリアージタグの不備・問題点：妊婦の識別欄が無い・色覚異常の人は色の判別が困難・・・日本救命医学会で改善中

重要：和田中学校救済所運営協議会で「支援有専順位の色」を決めておく事。

特記：下記支援順位ランクの色は馬橋小学校救済所手順書を使っている。支援順位ランクの色は救済所で任意に決めている。

[支援Aランク：赤]

◎ 要介護度2以上（認知症含む）

◎ 80才以上の身体障害者及び単身者

[支援Bランク：緑]

◎ 要介護度2以上（認知症含む）

◎ 日常の医療が必要(点滴、胃ろう、透析など)

◎ 70才以上の身体障害者

[支援Cランク：青]

◎ A・Bランク以外の対象者

◎ ランクを上げたい、または下げたい

◎ 判断が出来にくい場合

◎ 新しい区分が必要

[支援Dランク：黄] 民生委員が対応する。 ◎ 対人接触が不得意

訓練の反省会

訓練後は問題点を洗い出し、直ちに修正・改善する

1. 訓練全般

[評価・反省・改善箇所など]

- ① 実際の震災時と同様に、緊張感を持って活動したか。 ⇒
- ② 司令系統の統制が取れたか。また、各部や班と連携はどうだったか。 ⇒
- ③ 町会・学校・学生・保護者の会・区役所・消防署・警察署のと連携 ⇒
- ④ 現地と通信連絡が取れない、その他トラブルは起きなかったか。 ⇒

2. 支援活動開始時の段取り

- ① 救援支援の担当者はすぐ集合したか。 ⇒
- ② 登録者名簿、その他の資料はすぐ取り出せたか。 ⇒
- ③ チェックシート、救助支援シール、区域地図、連絡用電話の準備は ⇒

3. 安否確認行動

- ① 電話班・現地確認班・救助班の編成はスムーズに出来たか。 ⇒
- ② 協力者の確保は出来たか。 ⇒
- ③ 自宅避難者・要救助者などの連絡はスムーズに出来たか。 ⇒

4. 支援・搬送・救助に出動

- ① 機材は直ぐに出せたか。 ⇒
- ② 機材を直ぐ使えたか。 ⇒

5. 避難行動・避難生活の支援

- ① 避難室の運営・指導・管理はどうだったか。 ⇒
- ② 要援護者への対応はできたか。 ⇒

